

「美しいやまぐちづくりとランドスケープ」 景観アドバイザー 宮川 央輝

私は現在、緑を扱う景観デザイナー「ランドスケープアーキテクト」を多くの人に知ってもらうため、「ランドスケープをしよう」というホームページの運営や執筆活動を行っています。〈ランドスケープ〉は、主に植物を使いながら景観創造を行うスペシャリストといわれています。自然や緑、そして大地との〈折り合い〉をつけながら、公園広場や庭園、ビオトープなどに形をかえて市民に提供します。

さて、景観形成というのは、その地域がどんな姿に将来なりたいのか、それを実現するための〈ツール〉だと私は思っています。景観づくりは見えるものだけにとらわれるのではなく、まちに住む幸せへの〈共感づくり〉が大切だと感じています。

人は今でもその土地に強く惹かれて存在しています。大きな木をみると、その場所が豊かで安定していると潜在的に認識し、人の心が落ち着くように、悠久の景観に囲まれたとき、人は自分の存在を確かめることができます。また、私たちは一つの苗木から豊かな森の夢をみんなで共有することができます。自分たちの生活を見直し、どう歩んでいきたいのかを考えたときに、そこにふさわしい景観〈ランドスケープ〉の一步が始まると考えています。

さて、各都道府県でも景観計画がつくられていますが、特に山口県では、人を大切にすることに特徴があるように思います。みなさんの活力と想いが山口県のこれからの景観を描いていくと思いますので、今後の活動にもどしどしご参加ください。私も今後の山口の景観の芽吹きと生長をととても楽しみにしています。